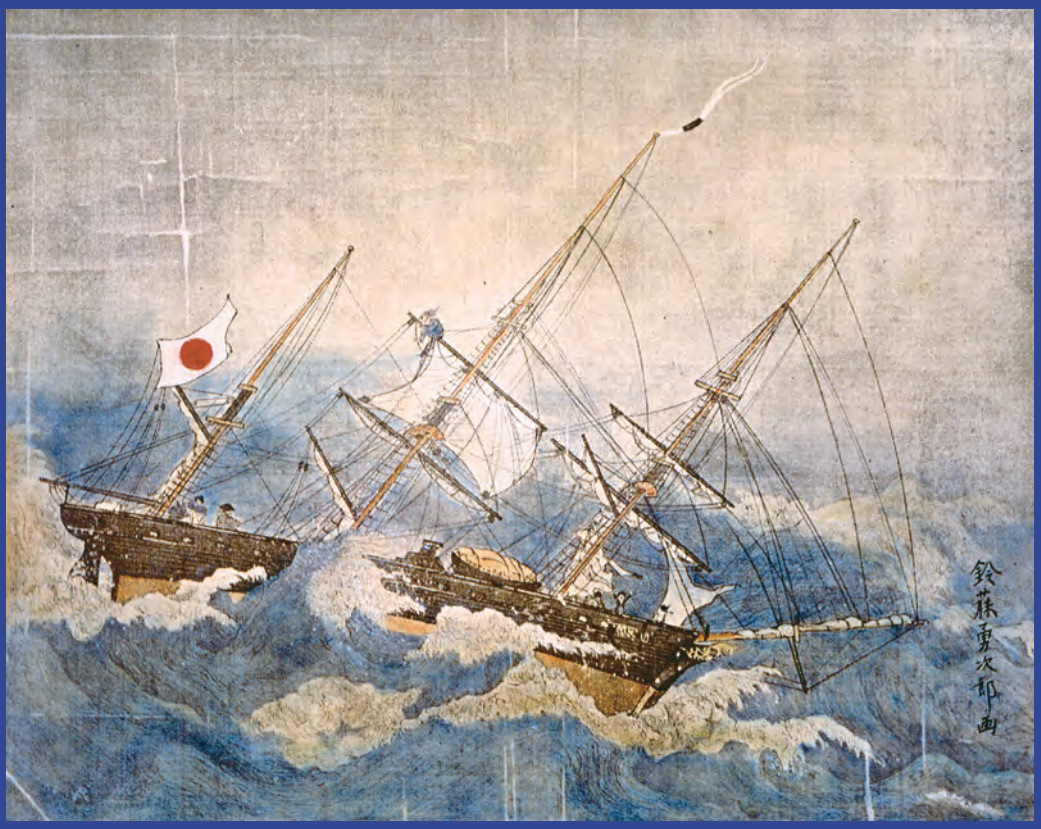
川越市立博物館

博物館だより

第60号



木村家所蔵、横浜開港資料館保管

咸臨丸難航図と鈴藤勇次郎

幕末の軍艦咸臨丸は、江戸幕府がオランダから購入した3本マストを持つ蒸気船で、洋式海軍創設時の練習艦としてその役割を担っていました。咸臨丸の名を一躍有名にしたのは、万延元年(1860)に遣米使節の随行艦に選ばれ、日本人による初めての太平洋横断を成し遂げたことによります。この時の遣米使節は、安政5年(1858)に締結された日米修好通商条約の批准書交換を目的としていました。また随行艦派遣の目的は、使節に予期せぬ故障が生じた時にその欠を補うことにありましたが、乗組員の遠洋航海訓練も兼ねていました。咸臨丸の乗組員は提督(軍艦奉行)木村喜毅、艦長(軍艦操練所教授方頭取)勝麟太郎など総勢90数名で、この他に日本近海で難破したアメリカ測量船の乗組員を本国に送り届けるため、測量船の船長ブルックら11名が同乗していました。

上掲の「咸臨丸難航図」は木村家所蔵のものです。原画は、咸臨丸の運用方として乗船していた鈴藤勇次郎が苦難の航海を思い出して描いたものです。激しい荒波の海を、船体を大きく傾けて突き進む咸臨丸の姿は、この航海の厳しさを如実に表現しています。この図は昭和13年(1938)に文部省によって複製画が製作され、広く知られるようになりました。

鈴藤勇次郎は、藤枝英一(本姓鈴木、後川越藩士藤枝家を継ぎ、姓を改める)の次男として文政9年(1826)に上野国川井村(現群馬県玉村町)に生まれました。兄は川越藩刀工として知られた藤枝太郎英義です。勇次郎が名乗った鈴藤姓は、鈴木と藤枝の姓から一字ずつ取ったものです。↗

↙勇次郎の経歴については資料が少なく、不明な点が多いのですが、嘉永2年(1849)正月に江川太郎左衛門の韮山塾で行われた狩(山猟)に同行した記録があります。(『高島流砲術史料　韮山塾日記』韮山町役場刊)韮山塾では砲術稽古とは別に狩が重要な修業と位置付けられていました。勇次郎はその後も何回となく狩に同行していることから、これ以降韮山代官所附の手代(事実上の家臣)として召抱えられたと考えられます。そして安政2年(1855)6月に、江川の推挙により幕府の御鉄砲方附手代となり、御普請役格の身分となりました。同年8月勇次郎ら5名は選抜されてオランダ蒸気船運用方其他伝習御用として長崎に派遣され、新たに設立された長崎海軍伝習所の第1期生となりました。(『江川坦庵全集』)その後、文久元年(1861)に軍艦操練教授方出役、慶応元年(1865)に小十人組格に進み、軍艦頭取を命ぜられました。慶応4年、病を得て前橋に帰っていましたが、旧幕府海軍副総裁榎本武揚が新政府に抵抗して軍艦数隻を率いて函館に向かったことを聞き、共に行動できないことを嘆き、同年8月24日に自決しました。43歳でした。

川越城下の御鷹部屋

鷹絵額　仙波東照宮蔵

はじめに

川越は徳川家康をはじめ、徳川家三代の将軍が度々鷹狩りに訪れたところです。水辺には、多くの水鳥が生息し、当時は鶴や白鳥も飛来していました。川越城主は幕末までに7家を数えますが、いずれも譜代大名などで、将軍から国元での鷹狩りを許されていました。代々の城下の絵図には鷹を飼育する「御鷹部屋」があることがわかります。<図1>は松平（大河内）信輝時代（1672～1694）の城下絵図ですが、養寿院裏手に「御鷹部屋」を確認することができます。

また、川越城の周辺は幕府の鷹匠が支配する「御鷹捉飼場」となっていました。このため、幕府の鷹匠たちが川越方面にも数多く捉え飼い（鷹狩り）に訪れました。この鷹匠たちは、渡り鳥の飛来する冬場に、江戸の「御鷹部屋」から出発し、一冬の間長い狩猟の旅に出ます。街道では宿場、野においては村々の名主宅などに宿泊しながら捉え飼いを行い、獲った獲物を宿継ぎで江戸に送ります。川越城下では、川越街道の宿場である江戸町の本陣や宿のほか、有力な町名主宅にも宿泊しましたが、多くの鷹匠がかち合うため、いずれの頃よりか、宿泊施設としての御用屋敷「御鷹部屋」が存在していました。

ここでは、特に松平大和守家時代（1767～1866）の城下にあった「御鷹部屋」についてみていきたいと思います。

1、川越藩主の「御鷹部屋」

松平大和守家時代の城下絵図は詳細なものがなく、「御鷹部屋」の記載があるものは残念ながらありません。前代の秋元家時代（1704～1767）の絵図に「御鷹部屋」とある場所は<図1>の松平信輝時代の絵図のものと同じところです。また、秋元家時代の宝暦3年（1753）に書かれた『多濃武の雁』（秋元家家臣太陽寺盛胤著）には、「御厩高沢の末、養寿院の境内也」続いて「御厩下、御厩下御鷹部屋入口道六十間、侍屋敷片側四軒也」さらに、「堺町本名餌差町、御鷹部屋脇より妙昌寺前通り迄の惣名なり、御鳥屋ありし頃御餌差十人計りも住せし也、其頃より餌差町と云」とあります。養寿院裏手のこの地は、代々の城主に「御鷹部屋」として受け継がれてきたものと思われます。現在でも「鷹部屋町」と呼ばれていることからも、この同じ場所に松平大和守家の「御鷹部屋」も存在していたことが推定されます。

松平大和守家の5代朝矩は明和4年（1767）に上野国前橋城より川越に転封してきましたが、その翌年突然死去し、千太郎7歳（6代直恒）が家督を継ぎます。幼い藩主の成長に伴い、安永4年（1775）になって、初めて川越において「御鷹」を始めることになった

〈図1〉　川越御城下絵図面（部分）　元禄7年　次原邦子氏蔵　大蓮寺保管

ことが、「藩日記」（「前橋藩松平家記録」）に記されています。「御鷹」は鷂（はいたか）・大鷹（はやぶさ）・隼などが飼われていました。鷹匠はほぼ世襲で10名ほどいたようです。以来代々の藩主は、参勤交代で国元に帰ったときに、城下近郊の村々で鷹狩りを楽しみました。「喜多町御用留」（お触れを書き留めた日記）には、次のようにあります＜資料1＞。

＜資料１＞　「喜多町御用留」

〈読み下し〉

十一月二十九日（文政七年）

明（あくる）二十九日四ツ半時、御供揃いにて西大手御門より宮ノ下下町御通り、鴨田村辺りへ御鷹野として入らせられ候条、例の通り宜しく取り計らわれ候、御帰城御道筋の儀は御小休所（ごしょうきゅうじょ）より仰せいでられ候、この段あい心得べく候、以上

十一月二十八日　町方役所

町年寄中

この時の藩主は松平大和守家8代の斉典（なりつね）で、鴨田村のほかに福田村や菅間村、小ヶ谷村など、翌年の1月まで数回鷹狩りに出かけていることがわかります。

この後、10代直侯（なおよし）や川越藩最後の藩主となった11代直克（なおかつ）も鷹狩りを楽しんだことが「藩日記」にみえています。

2、幕府鷹匠の御鷹部屋

幕府の鷹匠頭は2名で、千駄木と雑司ケ谷（ぞうしがや）の2か所に「御鷹部屋」があり、このうち千駄木部屋の鷹匠頭の戸田氏が捉飼場の川越領筋を受け持っていました。戸田氏配下の鷹匠や同心たちは、千駄木の御鷹部屋から川越街道を通り川越城下に宿泊し、さらに獲物の鳥を追って先々の村々へ渡って行きました。あるいは逆に、岩槻あたりより上尾を通り、川越城下へとやってくることもありました。特に渡り鳥の飛来する冬期には、あちこちから御鷹を連れて集団で宿泊しました。「喜多町御用留」をみると、毎年数多くの宿泊があったことがわかります。＜資料2＞には次のようにあります。

＜資料2＞

〈読み下し〉

（前略）

十二月十日（文政七年）

御鷹匠御組頭

可児孫十郎様　御本陣

御鷹匠

上野岩太郎様

岡太郎左衛門様　庵

御同心

小林段蔵様

石川伝左衛門様

林太七様

小林栄助様

藤倉大右衛門様

岩佐源之助様

安藤八兵衛様　庵宿

坂本嘉作様

畑田啓助様

右の御方様今十日明ケ（あけむつどき）六ツ時、白子宿御出立にて、当町へ御越し成られ候あいだ、この段申し上げ候、以上

申十二月十日　問屋

別紙の通り、申し来り候あいだ、失礼の者これなきよう御取り計らい成られべく候、以上

町年寄

（後略）

これをみると、鷹匠組頭は江戸町の本陣、鷹匠たちは「庵」に、同心たちは「庵」と宿に、宿泊の要請があったことがわかります。

また、「喜多町御用留」の文政11年（1828）正月20日のところには、次のようにあります。

〈読み下し〉
御鷹匠同心
山崎新四郎様
富田藤兵衛様
右の御方様、今二十日、埼玉郡芝山村御出立にて、当町へ御越し成られ候、御道筋は宮ノ下、喜多町、志多町いおりへ御着、宜しく御取り計らい成られべく候、以上
正月二十日　町年寄

これには道筋が書いてあります。いおり（庵）は、志多町にあることがわかります。

志多町は喜多町に続く町で、近くには東明寺や大蓮寺があります。＜図２＞は水村家に残る寛政３年（1791）の志多町絵図です。これをみると、大蓮寺の脇に「御鷹部屋　壱反九畝弐拾八分　本町清右衛門　北町伊兵衛」とあります。ここに「御鷹部屋」があり、「庵」とも呼ばれていたことがわかります。幕府の鷹匠の多くはここに宿泊したのです。

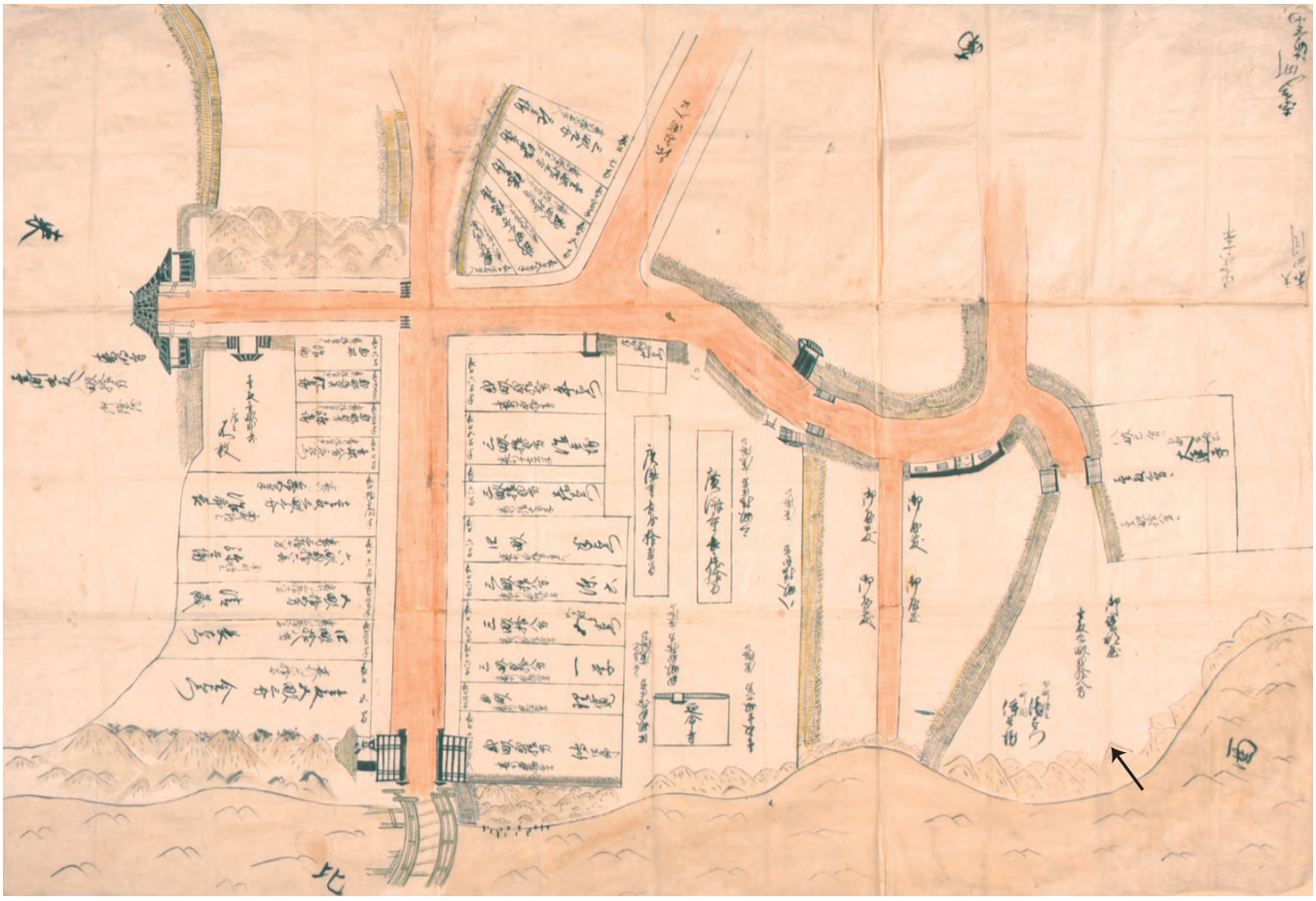
この志多町の「御鷹部屋」については、「藩日記」の文政２年(1819)3月20日の項にその経緯が書かれています。

これによると、先代（秋元家）の時には志多町の忠兵衛が御鷹部屋を所持し、御鷹匠宿を勤めてきましたが、その後川越町の御鷹宿を勤めてきた者に譲られ、惣代は、本町綾部清右衛門と喜多町間坂屋伊兵衛であったとあり、絵図の記載の通りです。

また、これにはその後のことも書かれていて、文政２年の当時は町名主に渡されて、川越十ヶ町持ちとなっていること、町持ちであるのに町の御番衆も入いることができず、御鷹宿というよりは「御鷹御陣屋」と呼ばれている、とあります。幕府の御用地のような特別権威ある場所になっていたものと思われます。

また「武蔵三芳野名勝図会」には、「庵」について次のように書かれています。

「唯心庵　志多町分赤間川涯に有。亦濯紫園トモ云。…… 暫く荒廃に及びしを、唯心と云僧、住ける間、唯心庵と云べきを、世俗庵りとのミ呼び来れり。其後、



＜図２＞　川越志多町絵図面　寛政3年　水村清氏蔵

又、下町紀伊国屋何某住けるが、今ハ、十ヶ町の持となりて、御鷹之御宿を勤む。……」

さて、「喜多町御用留」天保4年（1833）の項には正月16日から18日にかけて連日にわたり鷹匠宿泊の記載があります。まず、16日には鷹匠同心2名が並木村より当町「庵」へ御着。17日には鷹匠組頭の可児孫十郎が白子宿より川越江戸町「本陣」御泊まり。同日鷹匠同心3名は「庵」へ御泊まり。そして、18日には次のように記されています。

〈読み下し〉
十八日
御鷹匠同心
荒井左兵衛様
飯田半六様
右の御方々今十八日粕壁宿
御出立にて、当町へ御越し
成られ候、もっとも宮ノ下
通りの御鷹部屋へ御着にこ
れあり候あいだ、御取り計
らい成られべく候、以上
正月十八日　町年寄

このように16日から18日の間に、「庵」、「本陣」、「宮ノ下通りの御鷹部屋」と宿泊先が3か所になっています。

これについて、文化15年（1818）に書かれた『川越松山之記』（独笑庵立義著）所収の城下絵図＜図3＞をみてみると、宮ノ下通りの氷川社向かい側大興寺脇に「鷹部屋」と書かれており、ここにも「御鷹部屋」がありました。この絵図では、先に述べた大蓮寺脇の「御鷹部屋」は「庵」と記されています。

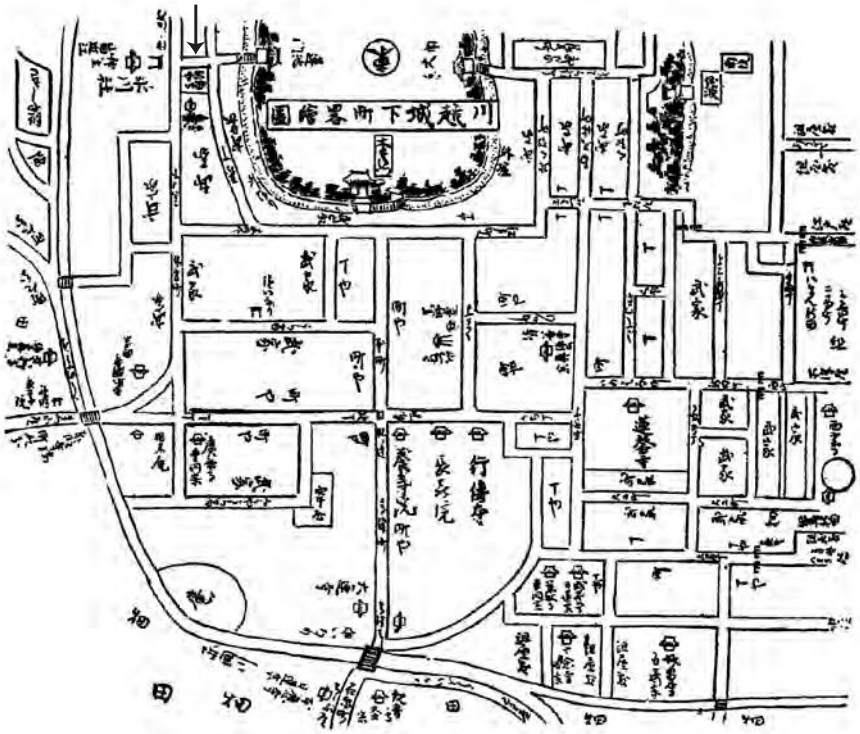
幕府鷹匠のための「御鷹部屋」は、そこで鷹を飼育していたのではなく、宿泊の施設であったことがわかります。「御鷹部屋」や「庵」は、鷹匠や同心たちがおもに宿泊したようです。鷹匠頭である戸田氏の宿泊は数年に一度という特別なことで、天保13年（1842）の時には、喜多町名主水村与右衛門宅が宛てられました。特別な宿泊では、加茂下家や綾部家も宿に宛てられています。有力な町人のところでは「御鷹部屋」ではできない、特別に丁重な接待がおこなわれました。鷹匠頭戸田氏には川越藩主からも贈り物が届けられたことが「藩日記」にみえています。

3、おわりに

川越城下には「御鷹部屋」が3か所にありました。志多町「庵」と宮ノ下の2か所は、幕府の鷹匠たちが城下を通行して行く時の宿泊所となっていました。養寿院裏手の所は川越藩主の鷹部屋として実際に鷹や隼が飼育されていた所です。現在も鷹部屋町という町名にその名残がみられます。

(古文書整理員　佐藤啓子)

参考文献
「松平大和守家記録　川越」　前橋市立図書館所蔵
拙稿　上福岡市史研究『きんもくせい』第九号　2003
「川越藩松平家の鷹場について」



＜図3＞　川越城略絵図　「川越松山之記」（『埼玉叢書』所収）より転載

博物館20年の軌跡

▶ 第10回企画展「町割から都市計画へ－絵地図でみる川越の都市形成史－」
平成9年3月22日～5月11日
※売切れ

▶ 開館記念特別展「職人絵－姿絵にみる匠の世界」
平成2年3月1日
～4月8日

川越市立博物館は、平成2年3月、市制60周年記念事業として開館して以来、270万人を越える多くの方にご来館いただいています。そして、今年開館20年を迎えました。この間、特別展等は53回、収蔵品展等は22回、『むかしの勉強・むかしの遊び』展は20回開催してきました。これも、皆様のあたたかいご支援に支えられたものと感謝申し上げます。

川越市は「小江戸川越」とも称され、長い歴史と伝統ある地域です。今後もこれらを基調とし、「親しみやすく、わかりやすい」博物館をモットーとして運営に努めてまいります。

そこで、開館以来開催されてきた特別展や収蔵品展の中で特に関心の高かった図録を挙げてみました。

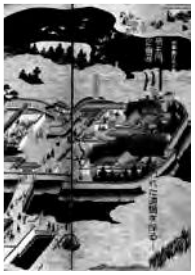
◀ 第11回企画展「川越氷川祭礼の展開」
平成9年10月4日
～11月3日

◀ 第1回企画展「うまどしの絵馬展－その祈りとかたち－」
平成2年4月28日
～6月10日 ※売切れ

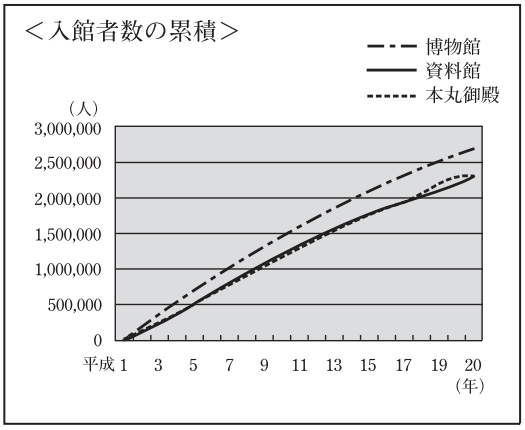
第16回企画展「河越氏と河越館」▶
平成12年3月25日
～5月7日
※売切れ

▶ 第2回企画展「写真展－明治・大正・昭和の川越－」
平成2年7月28日
～9月24日

◀ 第3回企画展「松平周防守と川越藩」
平成3年3月19日
～5月12日



▲ 第5回企画展「川越城－失われた遺構を探る－」
平成4年3月24日～5月10日
※売切れ



▲ 第30回企画展「後北条氏と河越城」
平成19年9月15日
～10月22日

博物館では、開館20周年を記念して、特別展「知恵伊豆　信綱 ― 松平信綱と川越藩政 ―」を10月から開催します。

この特別展では、寛永16年（1639）に川越藩主となった松平信綱に焦点をあて、信綱や信綱の川越藩政関係の資料を中心に展示します。また3代将軍徳川家光ゆかりの資料も併せて展示します。会期等のお知らせは、最後のページをご覧ください。

●平成21年度● 利 用 状 況 博物館・川越市蔵造り資料館

博物館・川越市蔵造り資料館とも、平成21年度中に、多くの皆様に御来館いただき、誠にありがとうございました。今後も、より多くの方に御満足いただけるよう、常設展示・企画展示の充実を図っていきたいと考えています。

皆様の御来館を心よりお待ちしています。

施設区分	年間入館者数				1日平均入館者数	開館日数
	一　般	大学生高校生	中学生以　下	合　計		
博 物 館	56,142	2,679	30,201	89,022	310	287
川越市蔵造り資料館	68,160	3,271	22,383	93,814	315	298

※川越城本丸御殿は、平成20年10月21日より保存修理工事のため休館中

Information

平成22年度の博物館行事です。（12月まで）

講　座・教　室　etc.

●…一般向け事業　　開催日　講座名
○…子ども向け事業　内容　申込開始日

7月

17(土)～　第20回収蔵品展「学びの移り変わり～教材教具のいま・むかし～」

○24(土)・25(日)　昔の遊び　申込不要

○28(水)　夏休み子ども体験
うちわを作ろう　7/4

○30(金)　夏休み子ども体験
探検!となりのまちの博物館　7/6

8月

第20回収蔵品展「学びの移り変わり～教材教具のいま・むかし～」

○3(火)　夏休み子ども体験　ミニ縄文土器を作ろう　7/7

9月

～20(月)　第20回収蔵品展「学びの移り変わり～教材教具のいま・むかし～」

○11(土)　土曜子ども体験
布ぞうりを作ろう　9/1

●12・19・26(日)　博物館歴史講座
講と信仰　9/3

○18(土)　土曜子ども体験
風呂敷でラッピング　9/2

10月

9(土)～　開館20周年記念特別展「知恵伊豆 信綱ー松平信綱と川越藩政ー」

○9(土)　土曜子ども体験
拓本体験　10/1

○23(土)　土曜子ども体験
まが玉を作ろう　10/3

○30(土)　子ども博物館教室
骨角器を作ろう　10/5

●16(土)　野外博物館教室
川越まつりの山車曳き体験　10/2

●24(日)　講演会
開館20周年記念特別展関連 未定

11月

～14(日)　開館20周年記念特別展「知恵伊豆 信綱ー松平信綱と川越藩政ー」

●3(祝)　民俗芸能実演
「南田島の足踊り」　申込不要

○13(土)　土曜子ども体験
和楽器体験ー三味線・琴に挑戦ー　11/4

○20(土)　土曜子ども体験
わらないに挑戦　11/5

●7・21・28(日)　博物館歴史講座
川越の近代Ⅱ　11/2

●27(土)　野外博物館教室
探訪　中世城館跡ー松山城趾ー　11/6

12月

○11(土)　土曜子ども体験
たこを作ろう　12/1

○18(土)　土曜子ども体験
お正月飾りを作ろう　12/2

※変更の可能性もあります。申込方法も含め、詳細については「広報川越」またはホームページを御覧ください。お問い合わせは博物館まで。

土曜子ども体験・昔の遊び・夏休み子ども体験は、午前10時～11時30分と午後1時30分～3時30分の時間帯で行います。また、7/30の夏休み子ども体験は午前9時～午後4時30分の時間帯で行います。

博物館・美術館の最新情報を
パソコン又は携帯電話へ電子メールで配信するサービスを始めます。

メール配信を希望される方は、川越市ホームページのオンライン「メール配信サービス」から「博物館メール配信」「美術館メール配信」の登録を行ってください。

8月25日から配信を開始し、毎月25日に最新の情報を配信します。

※登録料および情報提供料は無料ですが、インターネット接続やメールの受信などにかかる費用は利用者の負担となります。

第20回収蔵品展

学びの移り変わり ～教材教具のいま・むかし～

平成22年7月17日(土)～9月20日(月)

当館では、川越市や学校関係者、周辺地域の方々より教育に関する資料の寄贈を受け、数多く収蔵しております。そこで今回、「学びの移り変わり」と題し、明治5年に公布された「学制」より始まった学校教育の様子について、教科書や掛図、実験道具など様々な教材教具を展示し、紹介します。

7月下旬より、多くのお子さんが夏休みになります。この機会に、ご家族そろってお越しいただき、子どもの頃を思い起こしたり、お子さんと当時の思い出話に花を咲かせたりしながらご覧ください。

＜尋常小学校算術教科書＞
(昭和14年頃)

開館20周年記念特別展

「知恵伊豆 信綱 ― 松平信綱と川越藩政 ―」

平成22年10月9日(土)～11月14日(日)

三芳野天神縁起 部分 (埼玉県指定文化財) [三芳野神社蔵]

利　用　の　御　案　内

◆入館料

区分	博物館	川越市蔵造り資料館	共通入館(観覧)券		
			●博物館 ●美術館	●博物館 ●蔵造り資料館 ●美術館	●博物館 ●蔵造り資料館 ●美術館 ●まつり会館
一般	200円 (160円)	100円 (80円)	300円	370円	600円
大学生 高校生	100円 (80円)	50円 (40円)	150円	180円	400円

※(　)内料金は、団体〔20名以上、1名につき〕の場合

◆開館時間　午前9時から午後5時まで(ただし入館は午後4時30分まで)

◆休　館　日　月曜日(休日の場合は翌日の火曜日)※平成22年10月18日は開館
第4金曜日(休日を除く)年末年始(12月28日～1月4日)
館内消毒(6月下旬)特別整理期間(12月下旬)

*開館時間・休館日は、博物館・川越市蔵造り資料館とも原則として同じ
(館内消毒・特別整理期間は博物館のみ休館、蔵造り資料館は1月2日から開館)

交　通　案　内

東武東上線・JR川越線川越駅よりまたは西武新宿線本川越駅より、
・東武バスにて「蔵のまち経由」乗車札の辻バス停下車徒歩8分、または「小江戸名所めぐり」乗車博物館前バス停下車徒歩0分
・イーグルバスにて「小江戸巡回バス」乗車博物館・美術館前バス停下車徒歩0分
※御来館の際は、なるべく電車、バスを御利用ください。

川越城本丸御殿は保存修理のため、平成23年3月まで休館しています。

※ ●印は、2館休館(博物館、蔵造り資料館)、●印は、1館休館(博物館)

発行日　平成22年7月30日　　発行　川越市立博物館
〒350-0053　川越市郭町2丁目30番地1　TEL049-222-5399　FAX049-222-5396
Eメール　hakubutsukan@city.kawagoe.saitama.jp
ホームページ　http://museum.city.kawagoe.saitama.jp/